

東京2020大会気運醸成事業及び大会関連事業

1. 概要

区内開催競技のホッケーやパラリンピック競技への理解が深まり、区民が大会を身近に感じたり、また大会への期待感を醸成し、大会の感動が心に刻まれるように取り組んできた。大会当該年度においては、新型コロナの影響により、コミュニティライブサイトや聖火リレーなど主要な事業が中止となってしまったが、大会後のスポーツや文化の振興、共生社会への理解促進を目指し、区内の主要駅や区施設等での展示・装飾、SNS やホームページ等を活用し積極的に情報を発信するなど取り組んだ。

2. 主な取り組み

年度	主な取り組み内容	年度	主な取り組み内容
平成 27 年	<ul style="list-style-type: none"> ・トップアスリート派遣(～令和元年) 学校:10 校、総合型地域スポーツクラブ:4回、庁内連携:8回 	令和元年	<ul style="list-style-type: none"> ・トップアスリート派遣 学校:13 校、総合型地域スポーツクラブ:20 回、庁内連携:5回 ・区イベント等における競技体験会等の実施:4回 スポーツ健康フェスタ、区民スポーツまつり、おおたふれあいフェスタ、空の日 ・おおた活動新聞配布(区立全小中学校):2回 ・大会1年前イベント「おおたアクションデー夏 for2020」(約12,000人) ・大会 200 日前イベント「国際都市おおた 和太鼓フェスティバル」(約800人) ・その他:展示9回、ホストタウン交流事業14回 ・ホッケー応援動画、区ゆかりの選手応援動画の制作・放映
平成 28 年	<ul style="list-style-type: none"> ・トップアスリート派遣 学校:10 校、総合型地域スポーツクラブ:15 回、庁内連携:15 回 ・区イベント等における競技体験会等の実施:2回 スポーツ健康フェスタ、区民スポーツまつり リオ 2016 大会開催 区ゆかりの選手:パブリックビューイング、表敬訪問、区報紹介等 都主催ライブサイトに区内文化・スポーツ団体出演 ・東京都との連携:バッジ・ポスター配布、障がい者スポーツ理解促進事業 「NO LIMITS CHALLENGE」(～平成 30 年、OTA ふれあいフェスタ) ・フラッグツアー実施(成人のつどい) ・参画プログラム(～令和3年) 	令和2年	<ul style="list-style-type: none"> ・動画「おおた Fight!」「パラアスリートと支えあう人」の制作 ※公開は令和3年度 ・オリンピック1年前展示(7/16～7/30)、パラリンピック1年前展示(8/19～8/27) ・大会関連展示キャラバン(特別出張所 18 か所、図書館 15 か所) ・コミュニティライブサイト及び地域連携イベントの検討 ・聖火リレーの実施に向けた関係者調整及びボランティアの確保等
平成 29 年	<ul style="list-style-type: none"> ・トップアスリート派遣 学校:16 校 総合型地域スポーツクラブ:16 回、庁内連携:11 回 ・区イベント等における競技体験会等の実施:3回 スポーツ健康フェスタ、区民スポーツまつり、OTA ふれあいフェスタ ・大会3年前展示(本庁舎、322 人) ・大会 1000 日前イベント「スポーツフェス in おおた」(約3,000人) ・平昌2018冬季大会展示(本庁舎、156人) 	令和3年	<ul style="list-style-type: none"> ・「おおた Fight!」「パラアスリートと支えあう人」の公開(4/14～:大会 100 日前) ・区役所本庁舎などでの展示・装飾等 本庁舎の装飾及び懸垂幕の掲出 本庁舎1階での展示:ホッケー日本代表、区ゆかりの選手等 グランデュオ蒲田での大型バナー掲出・パネル展示 蒲田東口仮囲いの装飾 文化施設やスポーツ施設等における装飾・展示の実施 ・聖火リレーに関する取組 オリンピック聖火リレーボランティア(約 700 人)の募集や研修の実施 オリンピック聖火リレー点火セレモニーの参加(ランナー30 人によるトーチキス等) パラリンピック聖火リレー採火器具の製作及び種火の採火、採火式の実施等 ・「大田区×読響スペシャルコンサート」の収録・動画配信 ・区ゆかりの選手(本橋菜子選手、熨斗谷さくら選手、高田千明選手等)の情報発信 ・大会後:銀メダリスト本橋菜子選手への区民栄誉賞授与、大会出場選手の表敬訪問
平成 30 年	<ul style="list-style-type: none"> ・トップアスリート派遣 学校:13 校、総合型地域スポーツクラブ:19 回、庁内連携:4回 ・区イベント等における競技体験会等の実施:9回 スポーツ健康フェスタ、区民スポーツまつり、OTAふれあいフェスタ、池上まつり等 ・おおた活動新聞配布(区立全小中学校):2回 ・大会 500 日前イベント「おおたアクションデーfor2020」(約2,000人) ・その他:展示9回、ホストタウン交流事業6回、ボランティアマインド学習1回 		

● トップアスリート派遣・区イベント等における競技体験会等(H27～R1)

特別出張所や学校、他部局が所管するイベントにアスリートを招へいし、競技体験会やトークショーを行った。オリンピックやパラリンピック出場選手等と直接触れ合う機会を通して、スポーツの素晴らしさを伝え、大会に向けた気運を盛り上げた。



小椋久美子氏(バドミントン)

高山樹里氏(ソフトボール)

高田千明氏(パラ陸上)、河村元美氏(ホッケー)

● 大会カウントダウンイベント等

大会3年前の本庁舎展示を皮切りに、計8回実施した。競技体験やアスリートによるトークショーを中心としたスポーツイベントのほか、大会1年前イベントは、イベント参加者に限定せず、より多くの区民に関心を持ってもらうため、蒲田駅西口駅前広場で開催した。また、大会200日前イベントは、文化プログラムを意識し、大田区太鼓連盟と連携したイベントを開催した。

No.	各節目	開催日	イベント名等	内容
1	3年前	H29.7.31~8.3	記念展示	区ゆかり選手紹介、競技用具展示等
2	1000日前	H29.10.29	アスリート大集合!スポーツフェスinおおた	競技体験会、トークショー、展示等
3	2年前	H30.7.27	ボランティアミーティング	講演会、区事業説明
4	500日前	H31.3.9	おおたアクションデーfor2020	競技体験会、トークショー、展示等
5	1年前	R1.8.4	おおたアクションデー夏for2020	競技体験会、トークショー/大蒲田まつりと連携
6	200日前	R2.2.1	国際都市おおた和太鼓フェスティバル	大田区太鼓連盟、大田区民舞踊連名と連携
7	1年前(延期)	R2.7.16~7.30	オリンピック1年前展示	テーマ「挑戦し続けるアスリート」
		R2.8.19~8.27	パラリンピック1年前展示	テーマ「パラスポーツの世界」
8	100日前	R3.4.14~9.10	本庁舎装飾	大会ルックや区ゆかり選手紹介等
		R3.4.14~	動画公開	※別途記載



畠山愛理氏(500日前イベント)



浜口京子氏等(1年前イベント)

● 大会気運醸成動画「おおた Fight!」の制作・公開(R2～)

大田区出身のアーティストSEKAI NO OWARIの楽曲「Fight Music」を使用し、区ゆかりの4人の選手をはじめ多くの区民に出演してもらい、羽田空港や池上本門寺、商店街や銭湯などで撮影。コロナ禍で奮闘する姿を通じて、大会への前向きな気持ちを醸成し、アスリートへの応援に繋げていく動画となっており、公開から半年ほどで再生回数が約10,000回となるなど、話題となった。



【出演選手】

熨斗谷さくら選手(新体操団体)

本橋菜子選手(バスケットボール)

高田千明選手(パラ陸上・走幅跳/100m)

若生裕太選手(パラ陸上・やり投げ)

● 共生社会理解促進動画「パラアスリートと支えあう人」の制作・公開(R2～)

区ゆかりの高田千明選手と若生裕太選手が出演し、支えあう人との交流を通じて、お互いの想いを語っていただいた動画。障がいに向き合って変化していく心情や壁を乗り越えていく姿などを通じて、共生社会の理解に繋がる内容であり、教育現場での活用を促進した。



高田千明選手と布施みどりさん



若生裕太選手と新井俊樹さん

● 東京2020大会関連展示キャラバン(R2～3)

コロナ禍でイベントの開催が難しい中、特別出張所や図書館と連携し巡回展示を行い、区民の気運の維持に努めた。挑戦し続けるアスリート、パラスポーツを支える企業、区内開催競技ホッケーの3つのテーマを設定し、地域に合わせたきめ細やかな情報を発信することで、区の取組に対する認知度向上を図った。



大田図書館

● 大会100日前から大会終了後までの取組

■ 区役所本庁舎の装飾（外観及び内観）

本庁舎の外観に大会ルックや大会マスコットをあしらった華やかな装飾を行い、大会開催への期待感を高めた。また、1階正面ロビーには、区ゆかりのアスリートを紹介する装飾を行い、選手の認知度向上に努めた。【4月14日～9月10日】



本庁舎外観



本庁舎1階正面ロビー

■ 本庁舎等での懸垂幕掲示

大会に出場した白鳥勝浩選手、本橋菜子選手、熨斗谷さくら選手、高田千明選手の懸垂幕を本庁舎に掲出し、大会出場を祝い、区民の応援を促進した。また本橋選手が銀メダルを獲得した際にも懸垂幕を掲出し、功績を称えた。【7月5日～9月5日】



熨斗谷選手 懸垂幕

■ 本庁舎での展示

大会期間中、1階の展示スペースやガラス面を使用して、ホッケー日本代表選手や区ゆかりの選手を紹介し応援する展示、大田工業連合会が製作したパラリンピック聖火リレーの採火器具の展示等を行った。【4月14日～9月10日】

また、2階南側スペースでは、金澤翔子氏をはじめ、国内外の著名なアーティストが制作した東京2020公式アートポスターを展示した。【期間：8月4日～9月10日】

（オリンピックをテーマとした作品12点、パラリンピックをテーマとした作品8点）

そして、3階展示スペースでは、聖火リレートーチと1964年大会時のトーチ及び聖火ランナーのユニフォーム等を展示した。【7月8日】



ホッケー日本代表紹介
(7/14～8/19)



区ゆかりの選手紹介
(7/30～8/16)



高田選手入賞
(9/2～9/10)



(左)オリンピックトーチ
(右)パラリンピックトーチ



東京 2020 公式アートポスター展示



パラリンピック聖火リレー採火器具
(9/1～9/30)

■ グランデュオ蒲田での大型バナー掲出及びパネル展示

東西連絡通路のガラス面に、区ゆかりの選手を紹介する大型バナーを設置して、多くの駅利用者に印象づけたほか、同通路にて選手紹介のパネル展及びチラシの配布を行い、応援する気運を高めた。【バナー：4月14日～5月7日、パネル展示：4月14日～21日】



大型バナー(JR蒲田駅改札前)



大型バナー(東西連絡通路)



パネル展示(東西連絡通路)

■ 蒲田駅東口仮囲い装飾

JR蒲田駅東口仮囲いの壁面に、ブラジルの事前キャンプやホッケー競技の開催情報、区ゆかりの選手の装飾を行った。通行量が多い場所での大型装飾により、競技観戦や選手応援につながる情報を発信し、大会への期待感を高めた。

【7月5日～9月10日】



区ゆかりの選手

■ 大森駅周辺でのデジタルサイネージ

3か所のデジタルサイネージにおいて、ブラジル事前キャンプ、ホッケー競技、区ゆかりの選手について情報を発信した。【7月15日～8月8日】



中央改札ニューデイズ前



大森駅構内キオスク付近



大森駅構内キオスク付近

■ 文化施設における装飾と4館連携

大会開催時期にあわせて、郷土博物館と大森 海苔のふるさと館、龍子記念館、勝海舟記念館が連携して、各館の特徴を活かした企画展を行った。当事業に合わせて、大会公式デザインの横断幕を掲出し、大会との一体感を演出した。

【7月20日～9月末】



勝海舟記念館



大田区総合体育館

■ スポーツ施設における展示等

大田区総合体育館ではブラジル関連、大森スポーツセンターでは聖火リレー関連、大田スタジアムではホッケー関連の展示を行った(令和2年度から継続)。その他、区民に大会を身近に感じてもらえるよう、特別出張所や地域庁舎、大岡山駅前駐輪場、平和の森公園等に大会公式デザインをあしらった横断幕等を掲出した。

■ 「大田区×読響スペシャルコンサート」の動画配信

無観客で開催し、後日動画として配信。一流の音楽とオリンピック・パラリンピックの映像を通じて、区民一人ひとりの心が刺激されることで何かを始め、行動を変えるきっかけとなったり、また、高田千明選手や書家 金澤翔子さんの映像を通じて、障がいに対する理解を深め、共生社会の実現に寄与する内容とした。【期間:令和3年8月20日～令和4年8月19日】



コンサートの模様



高田千明選手のインタビュー



金澤翔子さんの揮毫

■ オリンピック聖火リレー

大会組織委員会及び東京都聖火リレー実行委員会が都内(島しょ部を除く)で実施する聖火リレーの公道走行を見合わせ、セレブレーション会場で点火セレモニーを開催した。区からは区長や聖火ランナーのほか、第一走者の伴走をする予定だった区内小中高校から選出されたサポートランナーも観覧者として参加した。【7月21日、品川区立しながわ中央公園】



区長挨拶



トーチキス
(田口良一さんから高田千明さんへ)



サポートランナー集合写真

東京都が点火セレモニーの様態をインターネットでライブ配信した。ミニセレブレーションに出演予定だった区内団体のステージプログラムについて映像を提供し、その動画内で放映された。

【団体】大田区太鼓連盟、大田区バトン協会、NPO法人ピボットフット



大田区太鼓連盟
ステージプログラム映像の一部

■ パラリンピック聖火リレー

東京都での公道走行が中止となったため、セレブレーション会場で点火セレモニーのみ行われた。区が推薦した、美谷島ももかさん(スポーツクライミング)とダブルダッチチーム「ROJER」が参加した。

■ パラリンピック聖火ビジット

パラリンピック聖火は全国の自治体それぞれの方法により火を起こし作られた。区では、ものづくりのまちの特徴を活かし、大田工業連合会青年部の協力のもと、各々の技術を得意とする区内8社によって、採火器具(凹面鏡と点火棒)を製作して、種火を採火した。【8月10日】 8月20日に、区長が区役所本庁舎前で、事前に採った種火を「大田区の火」とすることを宣言。同日、採火器具と「大田区の火」を本庁舎で展示した。



製作の様子



採火の様子



採火器具と「大田区の火」展示



大田区の火